

みなさん、こんにちは。NHK「おかあさんといっしょ」第16代うたのおねえさんの神崎ゆう子です。子育て中のみなさんの中には「ゆうこおねえさん」世代の方もいらっしゃるでしょうか？また、しまじろの「こどもちゃれんじ」でお目にかかった方もいらっしゃるかもしれません。

さて、今日は私がプロデュースした『うごく音えほん』のご紹介です。

2人の男の子を育てた私にとって、育児を語る時に欠かせないものが「絵本」でした。2人とも成人しておりますが、寝る前のお楽しみに毎日、子どものリクエストに応えながら読んでいたものです。兄弟でも選ぶ絵本はまったく違って、好奇心旺盛な長男はお化けものが多く、温和な次男はハッピーエンドのものをいつも選んでいました。いつの間にか壁一面が絵本棚に…(笑)。

この数年コロナ禍で様々なところで絵本の貸し出しがストップしたり、幼稚園やこども園でも様々な制限があるため、以前のようにスムーズな貸し出しができなくなっています。また、幼い頃からSNSの操作をすることで、親として必ずしも安心とはいえないものも目にしてしまう子どもも増えていきます。またお仕事をしながらの育児は、なかなか気持ちの余裕がないのが現実ではないでしょうか？

そこで私は自分の育児経験を生かし、親も子もいっしょに安心して楽しんでもらえる時間を作り、育児世代の応援をしたいと思います。『うごく音えほん』は絵本を音で包み込んだ新しいエンタテインメント「えほんシネマ」です。子どもの視線を考えた



神崎ゆう子プロフィール

武蔵野音楽大学声楽科卒業
学生時代からNHK「おかあさんといっしょ」第16代うたのおねえさんに抜擢6年間出演
その後「こどもちゃれんじ」のお姉さんとして13年間出演
現在、同番組歌唱指導レコーディング担当

フジテレビ系列情報番組「ノンストップ」の「いいものプレミアム」にサロンマネージャーとして出演中
(株)YUKOGARDENを設立、自身のプロデュースで「うごく音えほん」アプリリリース「子どもの声を育てる～声育(こえいく)も好評



アプリ



アプリマーク



ホームページ

これからも育児パパママのお役に立てるよう、エンタメと教育の架け橋になれるよう、様々な活動の中でお目にかかりたいと思います。

絵の動きや想像力を膨らませる音、音楽、声で構成されています。どれも飾らず必要なところのみのシンプルなもの、私の読み方も耳馴染みのよいトーンを意識しています。『うごく音えほん』に触れてみてください。



読んでさいたま

2022 vol.02 Autumn

さいたま市私立幼稚園協会新聞 第2号 令和4年(2022)秋号

一度しかない幼児期を幼稚園・認定こども園で過ごしませんか？

11月1日は幼稚園・認定こども園の願書受付日です



さいたま市を、日本一の教育が実践され続けていく自治体にしていきたい。

令和4年7月15日(金)さいたま市教育委員会において、細田真由美教育長と松尾創会長が対談を行いました。普段から本市の教育についてお話しされる二人が、和やかな雰囲気の中で子どもたちの未来について話し合いました。

協会：本日は、さいたま市幼稚園協会が発行する保護者向け広報誌に向けてこのような対談をお受けいただきまして誠にありがとうございます。

協会：細田教育長と松尾会長がこれからお話しされること、が本市で子育てに悩まれる世帯の一つの指針になればと考えております。また、その悩みに対応できる幼稚園の魅力が伝わればと考えて

おりますので、何卒よろしくお願いたします。

【細田教育長の生い立ちと自身の子育てについて】

教育長：長野で自動車修理工場を営んでいた父母と3歳違いの弟という家庭環境で育ちましたが、両親は共に47歳という歳にて

第20回さいたま市私立幼稚園PTA振興大会 | 開催報告 |

令和4年9月29日(木) RaiBoC Hall大ホール(市民会館おおみや)にて、第20回PTA振興大会が開催されました。

第一部の式典では、開式のことは、PTA会長挨拶に続き、大会宣言がありました。御来賓にはさいたま市長様、さいたま市議会議長様、さいたま市教育委員会教育長様、さいたま市子ども未来局幼児未来部部長様にご臨席賜りました。

第二部の記念講演では、元埼玉県教育委員会委員長、音楽家の松居和先生から「幼稚園で育つ親心～人間が幸せを追求する時、4歳児たちの「輝き」が指針となる～」と題したご講演があり、明日からの子育てに活力をいただき閉会いたしました。



編集後記

幼稚園ではのびのび自由にたくさん遊び、加えてこのキャンプでの野外体験を通して教育長との対談にもあった「非認知能力」が育まれればいいな、と思いつきながら私自身がキャンプを楽しませていただいています。また、今号のメイン記事である細田教育長と松尾会長の対談の司会も務めさせていただきました。対談に向けた準備のなかで細田教育長のことを調べれば調べるほど魅力的な方だと感じました。特に印象的だったのは細田教育長が大宮北高校の校長先生だった頃のエピソードです。たまたまですが、私の園に勤務する M 先生が大宮北高校の生徒のときに細田教育長が当時校長先生としていらしていました。当時の細田校長先生は、全国に

先駆けて制服をユニクロにしたり、理数科を創設したり、スーパーサイエンスハイスクールに認定されたりと多忙を極めていらっしゃったと思いますが(これらの新しい取り組みをされるだけでももの凄い信念と実行力を感じるのですが)、M 先生が所属していた吹奏楽部の大会の応援に何度も駆けつけられていたということです。そして全国大会(東日本大会)まで行き銀賞をとった際には生徒と一緒に涙して喜んでいただいていたのです。なんと熱くバイタリティのある方だと感じました。私も園児の成長を園児や保護者と共に喜べる先生でありたいと改めて思いました。

識してきました。

【本市における教育、そして就学へ向けた幼稚園教育の重要性について】

教育長：本市の市立小学校や中学校の学力は非常に高く、平成19年から始まった全国学力学習状況調査でも、全国的にトップグループに入っています。私自身は教育長に就いて5年が経ちますが、教育長に就いてすぐに、どうしてこんなにさいたま市の子どもの学力が高いのだろうと色々な調査をしました。結果としては、やはり見えない学力、非認知能力や自己肯定感が高く育成されているという事が分かりました。この結果から、数値で計れるようないわゆる見える学力には一見関係ないのではなからずと思われる教育活動がとても充実している、もっといざさいたま市の幼児教育が非常に優れているというところに到達しました。

非認知能力は幼児期から学童期にかけてしっかりと土台が作られる時期なので、この時期の教育が大切であるということ、さいたま市教育委員会のみならず、共育しているところです。そういった意味でも、幼稚園教育と小学校教育がしっかりと連携を取りながら、保幼小接続のカリキュラムなどを開発していく必要があると思います。今でもさいたま市保幼小接続カリキュラム作成の手引きという非常によくできているものがありますが、今後はこういったものにもっと魂を入れていく。これがとても重要なことだと思います。



会長：私もたくさんの方の行政の会議に出席しますが、この「幼稚園と小学校の接続」の会議は、とても素晴らしい。内容が面白いです。

教育長：そうですね。今回、新たに文部科学省から幼保小の架け橋プログラムというものが提示されましたが、さいたま市においては、これに先駆けて「さいたま市保幼小接続カリキュラム作成の手引き」を作成しております。この冊子は、本質が分かっている人たちにしっかりと関わっていただき、保幼小接続について、何が必要なのかをしっかりと議論して作成されたものですのでとても素晴らしいものであり、さいたま市の財産だと思います。

会長：いま、社会が変化していますが、幼児教育や小学校教育、こういった教育の部分がなかなかクロスアップされにくい世の中です。特に我ががやっている事は目に見えないことが多く、10年20年後に芽が出て、その後には花が咲いていくわけですよね。そうする

と批判的な意見も聞かれることもありますが、環境や事情はいろいろあるけれども、やはり、幼い時に受けた環境、親と子の関係やその後の小学校や中学校がどれだけ密接に関係するかというのは大事だと思います。なので、今のさいたま市の教育がトップグループにいる状況に甘んじていたらいけません。油断できないですよね。

教育長：本当にそう思います。特に日本は今後急速な少子化が進むわけですが、そのような時に「日本にとって財産は何」と考えると、人以外ないのだと思います。そして、未来を志していくのは子どもです。そういう子どもたちに、どんな未来を志す力をつけていくことができるのか、どのような教育を提供できるか、ということには私たちが関わっているのです。非認知能力の育成は乳幼児期から学童、児童期です。その一番大事な幼児期の部分で私たちに何ができるか、どんなふうにタッグを組んでいけるかということがすごく大事になると思います。

会長：「さいたま方式」で、是非、作っていきましょう。

【幼保小の架け橋プログラムについて】
教育長：私は教育長になったときに本市の強みを考えてみました。基礎学力や自己肯定感が高いのはもちろんありますが、それ以上にさいたま市はシステムとして、全校種をこの自治体が管轄している事、要するに、小中高、特別

支援学校や中等教育学校まで、全ての教育活動を俯瞰してみることで、6歳から18歳までの連続性を重視しながら教育活動が出来るというところだと思います。人間は生まれてから生涯を通じて成長していくわけですから、私は常に小中の連携、中高の連携、そして小中高の連携が大事だと考えています。

一人の子どもの育ちはずっとつながっていますので、校種が変わって、小学校教育で完結、中学校教育で完結、高等学校教育で完結、ということはありません。ですから、一番大事だと言われている非認知能力の基礎ができて、幼児教育と小学校教育がもっともつと密に連携していくことがこれ以上ないくらい大切だと思います。やがてや脳や神経の発育、いろいろな生活習慣、こういった人間の基礎となるところはこの時期に作られるといわれているので、ここを大事にしなくてどうしようかかと思っています。

会長：いわゆる小学校からの12年間の学びの連続性ということですよね。そして、幼稚園を3年としたら15年の学びの連続性ということを構想しているということでしょうか。

教育長：そういったものを構想しています。実は教育長に就いた最初の頃、松尾会長と一緒にさせていただいた時に幼稚園の教育を見させて頂くという機会がありました。幼稚園教育を具体的に見させていただいたときに、「6歳まではすごいと思います」「6歳まででこんなこともできるように



寄稿文

子供と共に育つ共育機関

さいたま市長 清水 勇人

さいたま市私立幼稚園協会の皆様及び各幼稚園・認定こども園の保護者の皆様には、日頃より幼児教育の振興のためにご尽力をいただくとともに、本市行政へのご理解、ご協力を賜りまして、深く感謝申し上げます。また、収束の兆しが見えない新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止への対応につきましても、重ねて御礼申し上げます。

昨今は夫婦ともにフルタイムで働く世帯の増加とともに、子供を保育所に通わせる世帯の割合が年々増えていますが、さいたま市では、3歳から5歳の約半数の子供たちが幼稚園に通っています。幼稚園は、学校教育法に規定される子供を教育する機関として、幼稚園ごとに、それぞれ教育理念や方針のもと、そのカリキュラムや行事などが行われており、そこが大きな魅力です。

幼稚園でも預かり保育の長時間化、通年化が進んできた結果、両親共働きで、幼稚園に通わせる方も増えていると思いますが、総じて、小学校に上がるまでは仕事よりも幼児期ならではの教育活動やお子様と過ごす時間を大切にしたいと考える保護者の皆様が多いのではないかと思います。何にも増してお子様の教育のために優先し、幼稚園に通わせたいと言いたい、私たち行政も大切に、等しく入園を後押しするための施策をこれからも講じていきたいと考えております。

親は子供の存在によって初めて親になります。日々の生活の中での子供との関わり、子供を通じた保護者同士あるいは地域社会等との関わりによって、子供がどれほど手間ひまをかけた育てられてきたのかわかります。

私自身を振り返ってみても、子育ては、確かに大変なこともあったと思いますが、田植え、昆虫採集、キャッチボールなど子供たちと一緒に過ごしたことや、日々小さな出来事で笑い、泣き、悲しみ、そして喜んだ思い出や時間は、大切な宝物です。私の人生の中で二度と戻ることができないかけがえのない貴重な時間だったと感じています。

子供が幼稚園の時に一日幼稚園教諭体験をさせていただきました。純真で素直な多くの子どもたちと接し、ふれあう中で、まさに「心が洗われた」ように感じました。自分の子供や同じ世代の子育てをしている親御さん、地域社会との様々なふれあいや体験の中で、自分自身に父親としての「自覚や心」が芽生え、成長しているように感じました。

このように子供と一緒に親も学んでいき、親として人間としても育っていく、そうした親子が共に育っていく環境が幼稚園には用意されています。幼稚園にお子様を通わせていらっしゃる保護者の皆様には、今しか得られないお子様と一緒に過ごす時間を何より大切にしてくださいと思います。

これからも私たちさいたま市は、皆さんと一緒に「子育て楽しいさいたま市」を目指して、「親と子の絆を深める」子育て支援を進めてまいります。

さいたま市幼児教育予算及び幼児教育に関する要望書 提出報告

令和4年8月2日(火)、さいたま市私立幼稚園PTA連合会の会長・副会長ならびに(一社)さいたま市私立幼稚園協会の会長・副会長・政策振興委員長・財務担当理事がさいたま市長、さいたま市議会議長、さいたま市子ども未来局長、さいたま市教育委員会教育長に訪問のうえ、「さいたま市幼児教育予算及び幼児教育に関する要望書」を提出いたしました。各訪問先では要望書の提出とともに、より良い幼児教育の実現のための意見交換も行いました。

要望書内容

- 1 子育てを頑張っている保護者に対する一層の支援
- 2 私立幼稚園・認定こども園及びそこで働いている教職員に対する一層の支援
- 3 私立幼稚園・認定こども園を取り巻く環境に対する一層の支援
- 4 私立幼稚園・認定こども園とさいたま市教育委員会との一層の連携強化

なるのか、「こんな基礎ができるのか」、「人としてのすくすく大事な基礎をこんなふうにつくっていく

ださっているのか」というのを目の当たりにしました。その後、小学校を見に行った時に、「あれ？小学校1年生もつやれるよ」、「もろろん小学校教育の中でも一番最年少ではあるけれども、一回戻してしまっている」、「幼児教育の中で培われて、きちんと蓄積があるのになど、幼小の連携がしっかりとできていないことには、っと気づきました。

会長：そのようなときに、このタイミングで架け橋プログラムが出てきましたよね。

教育長：そうなんです。本当にまさに待っていましたというような気持ちでした。

会長：そうですね。これが出たときに教育長が、「文科省から出ましたよ」として私に言ってくださって、本当にすごいタイミングだなと思いました。それでは、さいたま市もこれから動きますね。

教育長：そうですね。これはとても素晴らしいものなのです。さいたま市では先ほどお話ししたように、先駆けて素晴らしい手引きがあります。これが絵に描いた餅になつてしまつては絶対に駄目だと思つています。ここに魂を入れていく取り組みを具体的にやっていくということが大事です。それが小学校教育、中学校教育と全部つながっていきます。

会長：それが人生につながるん

ですね。

教育長：その通りです。常に成長していかなくてはいけないのです。試験も無いですよね。資格や試験も無く、みんな親業を知らない間に始めざるを得ないのです。かつてはその偉大な仕事について、社会や地域が支え教えてくれて親が親になっていました。だけど、今そういうシステムが消失してしまっている。

そのときに、幼稚園や小学校の仕組みの中で親業を果たせるようにサポートする。そうやって、親業が立派にできるようなサポートしていくシステムを一緒に作っていくかなくてはなりません。そういう正当に目をかけられて、正当に手をかけられて育っていく子どもたちは自立も早いのです。私たちは幼児期から小学校などの学齢期、この時期にしっかりとタッグを組んで、子どもは基より、是非ピギナーの親御さんが豊かな親業ができるような、そんな取り組みもしていかなければいけないですね。

会長：最後に、細田教育長として「教育」とは、

教育長：その通りだと思います。教育長…その通りだと思います。

会長：だから、保護者の就労や環境ではなく、大事に育てられた子どもは絶対にその愛情をどこかに刻んでいて、いつの日か親御さんや社会にその愛情を返すわけです。こういう社会にする為には、幼稚園、小学校や中学校がそれぞれ求められている役割を果たしていくことが大事ですね。

教育長：いや、本当にそうなので。私たちは親になるのに資格も

試験も無いですよね。資格や試験も無く、みんな親業を知らない間に始めざるを得ないのです。かつてはその偉大な仕事について、社会や地域が支え教えてくれて親が親になっていました。だけど、今そういうシステムが消失してしまっている。

そのときに、幼稚園や小学校の仕組みの中で親業を果たせるようにサポートする。そうやって、親業が立派にできるようなサポートしていくシステムを一緒に作っていくかなくてはなりません。そういう正当に目をかけられて、正当に手をかけられて育っていく子どもたちは自立も早いのです。私たちは幼児期から小学校などの学齢期、この時期にしっかりとタッグを組んで、子どもは基より、是非ピギナーの親御さんが豊かな親業ができるような、そんな取り組みもしていかなければいけないですね。

会長：最後に、細田教育長として「教育」とは、

教育長：その通りですね。やはり未来を創る仕事だと思います。

会長：このような教育長の元で育つ子どもたちもそうですね。職員の方も幸せだと思いました。

教育長：ありがとうございます。皆さんと一緒にこの地域を、さいたま市というところを日本一の教育が実践され続けていく、そういう自治体にしていきたくと思っています。

会長：ありがとうございます。私も、ぜひピギナーの親御さんが豊かな親業ができるような、そんな取り組みもしていかなければいけないですね。